



赤ちゃんの時から診ている患者さんを 重症感染症から守りたい

藤谷クリニック（大阪府大阪市） 藤谷 宏子 先生



藤谷クリニックでは、アレルギー疾患を中心に診療を行っています。食物アレルギーと気管支喘息の患者さんが8割を占めています。アレルギーは、遺伝的要因も関与しているため、患者さんのなかには親御さんになられ、アレルギー症状を発症したお子さんを連れて来てくださる方もいらっしゃいます。生後間もない頃から大人まで、長期にわたりフォローしている患者さんが多いことが当クリニックの特徴の1つです。

髄膜炎菌ワクチン メナクトラ®筋注を 7名へ接種

当クリニックでは、定期接種だけでなく、おたふくかぜ、ロタウイルス、B型肝炎などの任意接種も積極的に実施しています。診療を通して長い付き合いをしている患者さんが多く、「大変な思いをしてアトピーや気管支喘息を克服し、成長してきた子どもさんたちだからこそ、ワクチンで予防できる病気は確実に予防しておきたい」と考えています。

→はじめて聞くという方がほとんどですので、ワクチンの副反応を心配される方もおられますが、「髄膜炎菌に感染したときの危険性と比べたら問題になりません」と、ワクチンによる予防の大切さを説明しています。

「今までちゃんと育ててこられたのに、予防できる病気にかかってしまったら、私も大変つらいです」とお話ししています。あるお母さんは「子どもが重い病気になるのは絶対に嫌なので、この費用で子どもを守るのなら」と言ってくれました。また、自分自身が無菌性髄膜炎にかかったことがあるというお父さんは、子どもに同じような思いはさせたくない接種を希望されました。

また、柔道やラグビーなど身体接触のあるスポーツ選手や、寮生活や合宿、海外大会への参加の機会がある場合には、積極的に接種すべきだと思います。当クリニックでも空手の

髄膜炎菌ワクチンのメナクトラ®筋注も小学生から大学生までの計7名に接種しました。現在も、海外への留学や旅行、高校入学後に寮生活を予定している3名が接種を予約しています。宮崎県の高校の運動部寮における集団感染やスカウトジャンボリーでの発生の事例などを聞くと、身近なところでは患者さんが出てもおかしくないと思います。

接種年齢にあたるお子さんや保護者には、診察時などにもパンフレットを用いて髄膜炎菌感染症やメナクトラ®筋注について説明しています。ホームページでも情報を提供しています。✓

世界大会に出場するという高校生に接種しました。

診断が難しく、急激に進行し致命的に なることもあるからこそワクチンによる予防を

髄膜炎菌感染症は診断が難しく、急激に進行し致命的になることも少なくないので、ワクチンによる予防がより重要と考えられます。年長児でも、定期接種であるDT（ジフテリア・破傷風）2期や、インフルエンザワクチンの接種などの機会を捉えて、髄膜炎菌感染症についての情報提供やメナクトラ®筋注の接種勧奨に努めています。

私は「赤ちゃんの時から診ている患者さんを重症感染症から守りたい」という気持ちで髄膜炎菌感染症の予防に取り組んでいます。